

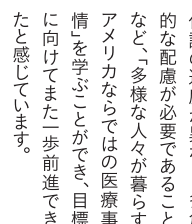


STUDENT INTERVIEW

「海外と日本の薬剤師の役割の違いを現地で学んでみたい」と思い、海外薬学研修に参加しました。現地の病院を見学して、まず驚いたのは、ICUや手術室でも薬剤師が活躍しており、医療チームの中で非常に重要な役割を担っていることです。さらにドラッグストアの調剤室では、薬剤師1名に対して、テクニシャンが6〜7名常駐していました。薬剤師の仕事はピッキングなどの調剤ではなく、処方薬の監査や服薬指導であり、私にはとても大きな発見でした。また、現地で出会った学生たちが積極的に学業に取り組む姿も刺激的で、今後の学生生活への意欲が大きく高まりました。



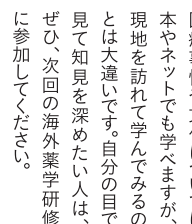
アリゾナでの海外薬学研修を通じて、私自身の中で特に大きく変化したのは「授業に取り組む際の積極性」です。現地の学生たちはどの授業にも非常に積極的に取り組んでおり、先生からの質問にも自ら率先して答えていました。その姿にとても刺激を受け、これまでより積極的に授業に参加するようになった自分に大きな成長を実感しています。また、病院やドラッグストアの見学では、日本と異なる多くの発見がありました。「アメリカの医療体制」や「アメリカでの薬剤師の役割」について、実際に自分の目で見て学ぶことにより、視野を大きく広げることができました。



将来は、国際的に活躍できる薬剤師になりたいです。その第一歩として、アメリカと日本での薬剤師の仕事の違いを学ぶために、アリゾナでの海外薬学研修に参加しました。病院やドラッグストアでの研修を通じて、薬剤師が担う業務の幅を学ぶことができ、処方権を持ついたり、ワクチンの投与ができたりするなど、その役割の広さには驚きました。また、例えば、人種によって身体の代謝の速度が異なり、多角的な配慮が必要であることなど、「多様な人々が暮らすアメリカならではの医療事情」を学ぶことが、目標に向けてまた一歩前進できたと感じています。



海外薬学研修に参加したのは、「とにかく海外を訪れてみたかったから」です。そんな好奇心だけで参加した私でしたが、アリゾナで過ごした数日間は本当に自分にとって新しく驚くことの連続で、とても有意義な日々でした。現地の薬剤師事情を病院やドラッグストアで学ぶことは大変興味深く、たくさんの発見がありました。また、アメリカでの経験を通じて、格差社会や貧困についても考える機会を得ることができました。さらに、アリゾナ大学での授業は自分の英語力の低さを痛感する場にもなり、これをプラスに捉えて、今後は英語の勉強にも力を入れて取り組んでいきたいと思っています。



海外薬学研修に参加して、「異文化理解」についての考え方が変わりました。以前は異文化理解と言えば、「差別をしないこと」と考えていましたが、研修を通じて例えば「イスラム教徒の患者さんは豚由来の成分が入った薬が飲めない」といったことを学ぶ中で、異文化に対する視点が大きく変わりました。これは薬剤師として仕事をする上で、とても大切なことです。海外の医療事情や文化については本やネットでも学べますが、現地を訪れて学んでみるのとは大違いです。自分の目で見て知見を深めたい人は、ぜひ、次回の海外薬学研修に参加してください。



日本とアメリカの
薬剤師の違いを
学びました。

4年
野村 祥子さん

個人旅行ではできない、
貴重な体験に
あふれていました。

5年
坂田 美碧さん

「異文化」との
向き合い方が、
大きく変わりました。

4年
木村 遥香さん

アメリカで
学んだ日々は
発見の連続でした。

4年
大家 裕太郎さん

現地の
学生たちの学ぶ姿が、
私自身の成長に
つながりました。

4年
久保 了子さん

海外薬学研修 報告会

実際に海外に滞在し、現地の薬学生と大学の講義を受けたり、大学病院、処方箋を受け付けているドラッグストアを訪ねて説明を聴いたりすることを通して、グローバル化に対応した国際感覚を養うことを目指す「海外薬学研修」。しばらく中止を余儀なくされていましたが、今年2月にコロナ禍後初めて、海外での研修を実施することができました。5月25日に行った報告会では、参加者たちがホスト校のアリゾナ大学での体験や学びを報告し、在学生は発表に興味深く耳を傾けました。

